



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」  
 ー心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー



# とひの かふち

## 《学校だより》 第6号

令和2年7月1日発行  
 湯河原町立湯河原小学校  
 校長 北村和裕

学校が再開して1ヶ月になりました。分散登校から一斉登校、そして給食が始まり、午後の授業も行うようになりました。学校は一步ずつ前に進んでいます。

再開したときは、学校にもようやく春が来たと思っていたら、今は蒸し暑い梅雨の時期となっています。新型コロナウイルスの感染症予防とともに熱中症の予防もしていきながら、7月を乗り切りたいと思います。



雨の中の登校

## 感染症予防に努めながらの図書室の本の貸し出し

新型コロナウイルス感染症予防のため、物の貸し借りはしないよう指導していますが、そうなる困るのは図書室の本の貸し出しです。休み時間になると、多くの児童が図書室を利用して、本を借りていきます。



手作りのシールド越しに貸し出し

学校再開後は、本の貸し出しを水曜日と金曜日に行ってきました。湯河原町では、町費で学校図書館司書を週2回、学校に派遣してくださっています。水曜日は木村さん、金曜日は鈴木さんが本校の図書館の運営に携わってくださいます。ですから、本の貸し出しは学校図書館司書のお二人が来校される水曜日と金曜日に行っているのです。休み時間や昼休みに子ども達が図書室にやってきて借りたい本を選びます。そして、カウンターの所に行き、借りるための手続きをしてもらいます。6月26日の借りた本の本数は54冊だったそうです。また、休み時間の終了後、図書室の机や椅子を司書の方が消毒液を使って拭いています。本の返却についても、図書室の出入りに置いた返却ボックスに児童が入れた本を、消毒して1日乾かし感染予防に努めています。今月からは図書委員会の児童も、感染予防をしながら貸し出しの活動を行います。



返却本の消毒

## 心温まる「心配の輪」

下校時に子どもたちを見送りに校門の所に行くと、1人の1年生が大きな声で泣いています。「どうしたの？」と尋ねてもただ泣くばかり。心配そうな顔をした子達が集まってきました。「お姉ちゃんを待っているんじゃないの？」と誰かが言うので「そうなの？」と聞くとうなずきました。でも、泣いたままです。心配そうな顔の子が増え、あつという間に輪になっていました。「この子のお姉ちゃん知っているよ。」「2年生だよ。」「2年生はこれから来るよ。」1年生を慰めるかのように優しい言葉が続きます。「お姉ちゃん来たよ。」と誰かが言うとその1年生は泣き止み、安心したような顔になりました。その姿を見て、いつの間にか心配の輪は解け、いつもの下校の風景になっていました。「心はほかほか」は本校のめざす子どもの姿の1つです。困ったときに心配し、声をかけてくれる「心がほかほか」な上級生たちがたくさんいました。

## 出席停止について

次のような場合は、欠席扱いではなく、出席停止扱いになります。

- ・分散登校期間中に、授業がなかった日
- ・児童の感染が判明した場合、または濃厚接触者に特定された場合
- ・児童に発熱、咳、腹痛等の風邪の症状が見られ欠席する場合
- ・感染が増えている地域で、同居家族が風邪等の症状があり、児童を欠席させる場合
- ・基礎疾患等のある児童が、感染予防のため登校すべきでないと判断した場合
- ・保護者の意向により、感染予防のため欠席する場合